

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成25年6月30日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	認定特定非営利法人フローレンス		
	住所	福島県郡山市長者 1-1-56 ザ・モール郡山 2F		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称	任意団体 走れ南相馬	担当者名	近藤能之
	住所	福島県福島市上浜町 12-14-202	電話番号	080-5036-3845
会議体に参画 する行政	名称及び部課名	福島県南相馬市健康福祉部 男女共同こども課	担当者名	小椋澄江

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称				
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名				
構 成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名		事業における 役割	
	民間非営利組 織の種類・名称		事業における 役割	
住所		電話番号		

2 事業概要

事業名	放射能の影響で、外で遊べない子どもたちのための屋内公園「ふくしまインドアパーク南相馬園」
総事業費	4,915,000円（うち希望補助金額 3,704,000円）
事業の実施期間	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

地域における 課題と事業の 目的	<p>地域課題、地域社会にとっての必要性（ニーズ）及びその確認方法、重要性、この事業により期待できる成果、地域住民への効果等がわかるように記載してください。</p> <p><事業の目的></p> <p>東日本大震災に関連した原発事故による放射能の不安で、福島の子どもたちが外で安心して遊べる機会が減っています。子どもにとって遊び</p>
------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

は、心身の成長だけでなく、コミュニケーション能力を養う重要なものです。ごっこ遊びで創造力を培い、友達と遊ぶことでコミュニケーション能力の基礎を学んでいきます。遊びは子どもにとって、欠かすことのできない心の栄養といえます。放射能問題が長引くことが想定される中で、安心して体を動かして遊べる環境を用意しなければ、乳幼児の心身の発育に影響が出てしまう状況です。

実際に南相馬市のお子様をもつ保護者の方々にヒアリングを行った際も、「子どもは外で遊びたい、親としても思う存分遊ばせてあげたいけれど、放射能の影響でそれができないことが苦痛」や「放射能を恐れて体を動かすのを避けると、体の弱い子供になってしまう。思いっきり遊ばせて体を強くさせたい」と切実な現状を聞くことができました。

こうしたことから、住民と共に 2012 年 8 月 14 日にふくしまインドアパーク南相馬園をオープンすることができました。ふくしまインドアパークで元気に体を動かして遊んだ子ども達が健やかに成長し、新しい福島を創る存在になっていくことが最終的な目的です。

<8/13 記者会見の様子>



<8/14 オープニングイベントの様子>



※ ふくしまインドアパーク南相馬園設立までを

TBS テレビ「ニュース 23 クロス」にて取り上げて頂きました。

<http://www.tbs.co.jp/news23x/feature/f201208160000.html>

<地域の課題>

○南相馬市で子育て世帯が感じている不安

・続く余震

2012 年 4 月～2013 年 5 月の間に日本で発生した震度 4 以上の地震は 81 回。そのうち被災三県では 35 回でした。すなわち、震度 4 以上の地震の 43% が被災地で発生しており、10 日に 1 回の頻度で大きな地震が発生していることとなります。大きな地震が起きるたびに、3.11 のような大きな地震になるのではないか、子どもや家族の命を守れるだろうか、そうしたことが瞬時に頭に浮かんできます。

・放射能の不安

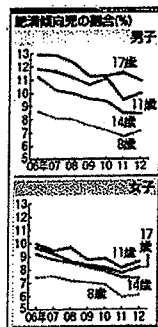
福島県内の各地で除染が行われていますが、除染作業をしても、放射線量が基準とされる値まで下がらない地域が 8 割近くに上ることがわかりました。除染の対象となる地域は、空間線量率が 0.23 μ Sv/時 (1mSv/年) 以上が基準となっています。NHK の調べで、除染を行っても基準とされる値まで下がらない地区は、福島県 21 市町村の 43 地区のうち 33 地区と実に 77%に上がっていることがわかりました。また、除染して一旦放射線量が下がったとしても、周辺からの飛散等により、線量が戻ってしまうケースもあります。

こうしたことから、「どこの公園が除染が終わっているのかが分からない」、「除染済みの公園でも線量が元に戻っているのではないだろうか」と、多く未就学児の親御さんが、子どもを外の公園で遊ばせることに不安を抱えていらっしゃいます。

・運動不足による肥満の不安

外での体育や遊びが制限されることにより、福島の子どもの肥満度が急上昇しています。特に体の発達が顕著な幼児期において、体を動かして遊べないことによる成長の影響について親は不安を持っています。

朝日新聞 DIGITAL(2012/12/25 より抜粋)
福島の子、肥満傾向高く 体育・屋外活動制限、影響か



肥満傾向児は全国的には減少傾向になっている＝文部科学省調べ

年齢	12年度	10年度	本県単位の順位
5歳	① 4.86	③ 4.63	1位
6歳	① 9.73	③ 5.03	1位
7歳	① 9.89	③ 6.86	1位
8歳	① 13.47	③ 8.35	1位
9歳	① 13.97	③ 11.16	1位
14歳	① 11.47	③ 10.94	1位
17歳	① 14.11	③ 12.71	1位

文部科学省は25日、今年度の学校保健統計調査の結果を公表した。肥満傾向の子の割合を都道府県別にみると、5～9歳、14歳、17歳で、いずれも福島県が全国で最も高かった。文科省や福島県教委は「原発事故で屋外活動が制限された影響ではないか」とみている。

全国の学校で今年4～6月にあった健康診断の結果から、4.9%を抽出して分析した。毎年度の調査だが、東日本大震災の影響で、昨年度は岩手、宮城、福島県は対象外だった。

年齢別、身長別に決められた標準体重を20%以上上回る「肥満傾向児」の割合は、5歳だと全国平均2.39%に対し、福島は4.86%で全国最高値。同様に、6～9、14、17歳でも福島が最も高かった。10、11歳は宮城に次いで2番目に高かった。12歳と15歳は5位、13歳は16位、16歳は26位だった。

<地域社会にとっての必要性（ニーズ）及びその確認方法>

南相馬市に屋内公園を設置準備していた2012年に、南相馬市住民約1,500人より市に提出した署名の写しを頂きました。住民の方々の屋内公園設置に懸ける思いがわかります。

<重要性>

2012年度において南相馬市の人口は、全体で1,175人減少しました。このうち449人が0歳～9歳の子どもです。福島県全体では、郡山市でも人口は減っていますが、南相馬の人口はより速いペースで減少しています。車で20分もいくと、原発から20km圏内の小高区や浪江町など、震災の時から手付かずの場所があります。こうした震災復興の最前線の場所で子育てをし続けることへの葛藤や不安は根強く残っています。復興の根幹は人々の安心です。南相馬市に住民が戻ってくるか、離れていくかは、この安心感にかかっています。特に福島の未来を担う子どもが健全に成長するために、体を使って安心して遊べる屋内公園は重要であるといえます。

<この事業により期待できる成果>

南相馬園の来場者数は、2012年8月～2013年3月の期間で2,495人となりました。今年度は、1年間で5,000人の来場者数を目標に運営しています。

<地域住民への効果>

ふくしまインドアパークは様々な人に遊び場を提供しています。

・南相馬市とその周辺の家族にとつての遊び場

幼い子供を抱える多くの親子が遠方へ避難する中、放射能の心配から外で遊ばせて貰えない子供達は、なわとびをやる場所にさえ困っています。乳児の時に原発事故に遭い、幼児の今に至るまで砂場で遊んだ事が無く、インドアパークに来園して初めて砂遊びを体験する子供も時折見受けられます。そのため、「遊び場を作ってくれて有難う御座います」と親御さんが頭を下げて下さる事もたびたびあります。会員は南相馬市内にとどまりません。放射線量には大きな差が無く、子供を外へ出し辛い状況にも関わらず満足な遊び場の提供されない相馬市（車で40分）と新地町（同1時間）から来られる会員さんが、約7人に1人を占めています。

・市外・県外在住の家族にとっての遊び場

避難等により市外・県外で暮らす家族は、連休等の南相馬市の実家への帰省時に、安心出来る屋内遊び場として活用されています。

・避難先から南相馬市へ帰り住もうとする家族にとっての遊び場

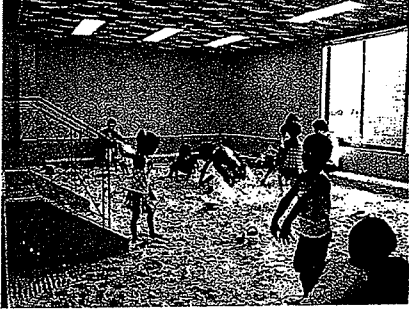

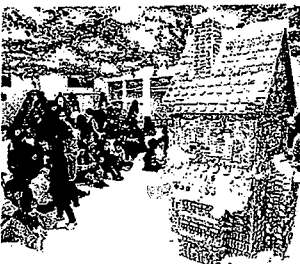


子供の健康への影響を心配し南相馬へ戻るか否か決断を迷う家族にとって、インドアパークの存在が大きな安心材料の1つとして評価されています。

・原発被災地の子供を救いたい団体や個人の方々にとっての遊び場

多くの子供達が集まり数々の地元幼保・児童館等とも繋がりを持つインドアパークは、被災地の子供達へ支援をしようとする県外のNPO・

	ボランティア団体にとっての窓口になっています。ふくしまインドアパークではお受けできないお話があったとしても、関連する団体に取りつぐことで南相馬地域全体がよくなるように考えています。
事業の目標	「〇〇を〇〇以上にする」等、可能な限り数値を用いて記載してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・年間 5,000 人以上の南相馬周辺の子どもが来場する ・年間 10 回以上のイベントの開催
事業内容	<p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。 『放射能の影響で、外で遊べない子どもたちのための屋内公園「ふくしまインドアパーク南相馬園」』</p> <p>【事業内容】 「放射能の影響で、外で遊ぶことができない」、「思いっきり体を動かして遊ぶ機会が減り、体力低下が心配」といった現状に対し、屋内公園を設置することで、安心して体を使って遊べる場を提供する。</p> <p>【実施時期】 平成 25 年 4 月 1 日より平成 26 年 3 月 31 日</p> <p>【実施場所】 福島県南相馬市原町区錦町 1-126</p> <p>【利用対象】 生後 6 ヶ月～小学校 2 年生 年間 5,000 人以上の来場者数を目標としています。</p> <p>【運営体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトオーナー：駒崎弘樹プロジェクトの統括責任者 認定 NPO 法人フローレンス代表理事、妻の実家が福島県須賀川にあり、慣れ親しんだ第二の故郷である福島の子ども達の遊ぶ環境が、放射能の影響で悪化したことに心を痛め、今回の被災地支援プロジェクト立ち上げにつながっています。 ●プロジェクトリーダー：今給黎辰郎 プロジェクト管理者 認定 NPO 法人フローレンス インドアパーク事業部マネージャー東京中央区の子育て支援施設運営の経験を活かして、ふくしまインドアパークの立ち上げに携わる。 ●プロジェクトメンバー：吉田邦彦 プロジェクトメンバー 認定 NPO 法人フローレンス/インドアパーク事業部スタッフ ●経理担当：佐藤真弓 認定 NPO 法人フローレンス/インドアパーク事業部スタッフ 各プロジェクトの助成金の担当者をしています。 ●パークリーダー@南相馬：2 名 施設運営を行う現地スタッフ



見込まれる成果	<p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <p>事業によって見込まれる成果について、直接的な効果と波及効果の観点の2つの観点で記載してください。被災者支援の場合は、特に、本事業により支援を受けた被災者の延べ人数を記載してください。</p> <p><直接的な効果> 年間 5,000 人のお子さんが安心して体を使って遊べます。</p> <p><水が使える砂場> <クライミングウォール></p>   <p><波及効果> 年 10 回以上のイベント開催により、お子さんや親御さんが楽しむ場を提供します。イベントを通じて子ども同士、親同士が知り合うきっかけとなり、人と人のつながりが生まれます。</p> <p><クリスマスイベント> <ロデオイベント></p>  
2. 取組実施主体の運営力強化の観点	<p>取組内容により、取組実施主体においてどのように運営力強化が図られるのか記載してください。</p> <p>2012 年より運営が始まったふくしまインドアパーク南相馬園では、チラシの配布や、利用者のクチコミ、インターネットでの告知等で地元での認知度が上がり、お子さんの来場者数が増加しています。今回の助成により、人材の雇用維持と育成を行うことができ、それが活発なイベント開催につながります。そして、遊具や玩具を購入することで、子どもたちに提供する遊びの提供力が強化されます。</p> <p>また、地元の有識者による委員会実施により、地域のニーズを継続的に運営に反映させることができます。</p> <p><委員会の様子></p> 

<p>事業スケジュール</p>	<p>いつ、どのような活動を行うのか、事業の進め方、段取りがわかるように記載してください。</p> <p>2013年04月 運営委員会の開催 ロディオガイベントの開催</p> <p>2013年05月 すもう大会の開催 地元幼稚園の遊びイベントの受入れ</p> <p>2013年06月 運営委員会の開催 リノベーションイベントの開催 和太鼓イベントの開催</p> <p>2013年07月 遊具購入案作成・見積り取得</p> <p>2013年08月 運営委員会の開催 夏祭りイベントの開催 遊具購入・設置</p> <p>2013年09月 地元の養護学校の遠足受入れ</p> <p>2013年10月 運営委員会の開催 ハロウィンイベントの開催</p> <p>2013年12月 運営委員会の開催 クリスマスイベントの開催</p> <p>2014年02月 運営委員会の開催 節分イベントの開催</p> <p>2014年03月 ひな祭りイベントの開催</p>										
<p>事業実施体制</p>	<p>事業の実施責任者、会議体の構成員の名称及び役割分担等を記載してください。 複数の団体が連携して申請する場合は、連携の具体的な内容についても記載してください。</p> <p>事業責任者：駒崎弘樹</p> <table border="1" data-bbox="459 987 1345 1265"> <thead> <tr> <th>構成員の名称</th> <th>役割分担</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NPO 法人フローレンス</td> <td>実施主体・運営・展開</td> </tr> <tr> <td>南相馬市 幼児教育課 佐藤光政様</td> <td>幼児教育面の指導・助言</td> </tr> <tr> <td>南相馬市 男女共同こども課長 小椋澄江様</td> <td>公園事業面の指導・助言</td> </tr> <tr> <td>よつば保育園 副園長／走れ南相馬 代表 近藤能之様</td> <td>パーク内の安全管理や運営管理 面の指導・助言</td> </tr> </tbody> </table>	構成員の名称	役割分担	NPO 法人フローレンス	実施主体・運営・展開	南相馬市 幼児教育課 佐藤光政様	幼児教育面の指導・助言	南相馬市 男女共同こども課長 小椋澄江様	公園事業面の指導・助言	よつば保育園 副園長／走れ南相馬 代表 近藤能之様	パーク内の安全管理や運営管理 面の指導・助言
構成員の名称	役割分担										
NPO 法人フローレンス	実施主体・運営・展開										
南相馬市 幼児教育課 佐藤光政様	幼児教育面の指導・助言										
南相馬市 男女共同こども課長 小椋澄江様	公園事業面の指導・助言										
よつば保育園 副園長／走れ南相馬 代表 近藤能之様	パーク内の安全管理や運営管理 面の指導・助言										
<p>事業終了後の展開</p>	<p>事業終了後、会議体の取り組みをどのように継続し、または発展させるのかを記載してください。</p> <p><u>事業終了後は、現地のNPOなどの団体に運営・会議体を引き継ぐことで、子どもの遊び環境を現地の方々が維持管理できるようにしていきます。そして、ノウハウやマニュアルといった知識を横展開し、同様の問題を抱えている各地に屋内公園を設置の支援をしていくことで、福島県の子どもが遊ぶ環境を向上させていきます。</u></p>										
<p>事業の先進性・普及性</p>	<p>どのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるのかを記載してください。</p> <p><u>郡山で2011年12月に開園したふくしまインドアパークの設立・運営により、最小限の費用で、効率的に素早く、地域のニーズにあった公園を運営するノウハウを蓄積することができました。このことは、民間団体であっても地域のニーズ沿った公園運営ができることを証明した先行事例となっています。</u>さらに企業が展開している一般的な屋内公園が、親の買い物や用事のために、子どもを預かるという目的であることに対し、<u>ふくしまインドアパークは親子で体を使って遊ぶことだけでなく、多くの人々がつながるコミュニティの創造も目的としています。</u>こうし</p>										

たことから、屋内公園のあり方としても、ふくしまインドパークの取り組みは新しいモデルと言えます。

＜ふくしまインドパーク郡山園の様子＞



こうした、郡山園の開園・運営で蓄積したノウハウを活かして、2012年8月に2園目となる南相馬園を開園しました。住民のニーズを聞き取り、人工芝を敷いたり、植物の天井装飾を施したり、水の使える砂場を設置したり、屋内でも自然が感じられる設計にしています。チラシやロコミ、SNSを利用した告知などで地元の認知度も上がってきており、月を追う毎に来場者数が増えています。南相馬園の開園・運営はふくしまインドパークのメソッドが横展開できることの証明でもあります。

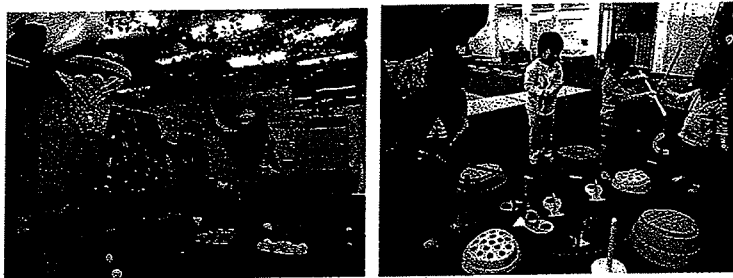
福島県の各地では復興が進んできていますが、子どもが遊ぶ環境面ではまだまだ多くの地域では手がまわっていません。そして、このことを問題であると認識している住民も多くいらっしゃいます。しかし、資金がなかったり、ノウハウがないことで行動を諦めてしまう方も多いのが現状です。今回の助成で運営体制を強化することができれば、民間団体が、自治体や地域の団体と連携して屋内公園を設立・運営している実例となり、同様の問題を抱えた地域に対するひとつの解決策となります。さらに今回の活動で得た知識やノウハウを暖簾分けの形で多くの方々と共有していく準備もしておりますので、「我が地域でも屋内公園をしたい」という方を一定期間受け入れてノウハウを習得して頂くことも可能です。またフローレンスのメンバーが、アドバイザーとして地域の活動をしている団体を支援することも可能です。このような方法で、福島県内に民間団体が運営する屋内公園を普及させていきます。

特記事項

特に説明しておきたい事項、アピールポイント等ありましたら記載してください。

2012年8月に南相馬園を開園した当初は、「放射能が不安」「体を使った遊びをさせたい」という親御さんがたくさんいらっしゃいました。遊び方も親御さんとお子さんが遊ぶケースがよく見受けられました。開園から10ヶ月が過ぎた今では、「遊び慣れた屋内公園でお友だちを作る」「人見知りしない子になるように」と考える方が多くなり、子ども同士が遊ぶ場になりつつあります。こうした遊び方の変化を見ても、日常に安心な遊び場を提供し続けることによって安心感は根付いていくものであると感じております。復興の最前線である南相馬に、子どもたちの笑顔がもっと広がるよう、ふくしまインドパーク事業に助成していただきますようお願いいたします。

<ふくしまインドアパークで友達と遊ぶ子ども達>



※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
収 支 予 算 書

申請者名 認定 NPO 法人フローレンス 駒崎弘樹

【収入の部】

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金	3,704,000	
自己資金（負担者名：認定 NPO 法人フローレンス）		
	761,000	フローレンスの他事業より充当する
事業収入	450,000	月会費 500 円×100 人×9 ヶ月
その他収入		
収入合計	4,915,000	

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 予 算 額	2,748,600 明 細
人件費（共済費を含む）	2,748,000	事務局スタッフ 2 名分 152,700 円/月×9 ヶ月×2 名 ※施設スタッフの人件費は別の助成金にて充当しております
旅費	297,000	33,000 円（2 泊 1 回）×1 人×9 ヶ月
需用費		
消耗品費	450,000	50,000 円/月×9 ヶ月
光熱費	900,000	100,000 円/月×9 ヶ月
役務費		
通信運搬費		
手数料		
使用料及び賃借料	520,000	駐車場代：30,000 円/月×2 ヶ月 賃貸料：230,000/月×2 ヶ月
支出合計	4,915,000	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載す

ること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。

